



# 第15期 報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日

サクサ ホールディングス株式会社

証券コード 6675

# 第15回定時株主総会決議ご通知

株 主 各 位

平成30年6月28日

東京都港区白金一丁目17番3号NBFプラチナタワー  
**サクサ ホールディングス株式会社**  
代表取締役社長 松尾 直樹

## 第15回定時株主総会決議ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本日開催の当社第15回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告および決議されましたので、ご通知申し上げます。

敬 具

### 記

- 報 告 事 項
1. 第15期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第15期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)計算書類報告の件
- 本件は、上記の内容を報告いたしました。

- 第3号議案 補欠監査役2名選任の件  
本件は、原案どおり山崎勇人および高口洋士の両氏が選任されました。  
なお、山崎勇人氏は社外監査役清水建成氏の、また、高口洋士氏は社外監査役飯森賢二氏の、それぞれ補欠監査役であります。
- 第4号議案 役員賞与支給の件  
本件は、原案どおり承認可決されました。

### 決 議 事 項

- 第1号議案 剰余金の配当の件  
本件は、原案どおり承認可決されました。  
(期末配当は、1株につき30円と決定いたしました。)

- 第2号議案 取締役7名選任の件  
本件は、原案どおり松尾直樹、磯野文久、大坂貢、中村耕児、井上洋一、および山本秀男の6氏が再任されたほか、新たに丸井武士氏が選任され、それぞれ就任いたしました。  
なお、山本秀男氏は、社外取締役であります。

以 上



代表取締役社長 松尾 直樹

株主の皆様には、平素より「サクサグループ」に対しまして、格別のご高配、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社第15期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)における事業の概況等につきまして、ご報告申し上げます。

当事業年度のわが国の経済は、堅調な企業業績を背景に、緩やかな回復基調で推移しましたが、欧米における政治リスクやアジアにおける地政学的リスクの高まりなどにより、景気の先行きは依然不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中で、当企業グループは厳しい事業環境の変化に対応し、「持続成長可能な事業への転換」と「あるべき姿に向けた収益構造への変革」を基本方針とした中期経営計画(平成29年度から平成31年度までの3か年)を策定し、事業構造の再構築と経営基盤の強化に取組み、成長軌道への足がかりとする3か年をスタートいたしました。

しかしながら、当事業年度の売上高は、アミューズメント市場における規制改正などの影響や市場環境の変化により、前年に対して減少し、376億8千4百万円(前年同期比6.8%減少)となりました。主な要因は、ネットワークセキュリティ製品および画像システムの増加はありましたが、OEMキーテレホンシステムならびにアミューズメント市場向けシステムインテグレーションおよび製品の受注減少などによるものです。利益面では、売上高の減少および研究開発投資の増加などにより、経常利益が6億5千3百万円(前年同期比39.3%減少)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、2億8千万円(前年同期比43.2%減少)となりました。

これらの状況を鑑みて、中期経営計画の最終年度である平成31年度の経営目標達成に向け、強力かつ継続して取り組んでまいります。

## <事業構造の再構築>

オフィス市場向けネットワーク事業と映像事業を集中事業と位置づけ、事業拡大に向けて強力に推進するとともに、IoTサービス等をキーワードに新規事業の創生等に取組んでおります。

当事業年度の成果として、集中事業である映像事業に関する監視・防犯・マーケティングなどの分野で活用できる画像解析技術および各市場における、さまざまなIoTソリューションに活用できる「IoTゲートウェイ」に関する研究開発を進めてまいりました。

ネットワークソリューション分野においては、映像事業の具体的な取組みとして、映像処理の集中を軽減する独自の分散処理技術を実装し、拡張性と耐障害性の高いVMS(映像管理システム)「SKVMS」の提供を開始しました。

また、高画質映像を約10分の1に圧縮し、かつリアルタイムに配信できる映像圧縮ゲートウェイ「VC1000」を開発、製品化しました。今後も引き続き、幅広くさまざまな映像ソリューションを提供し続けてまいります。

併せて、社会インフラ市場でのビジネス展開の足がかりとするため、アクションリサーチ株式会社へ出資するとともに、Raspberry Pi(小型で軽量のボード型コンピュータ)対応のIoTゲートウェイを日本アイ・ビー・エム株式会社のクラウドと連携することにより、新たなIoTサービスを創生してまいります。

セキュリティソリューション分野においては、これまで提供してきた自動火災報知設備に加え、「光警報装置の設置に係るガイドライン」(総務省消防庁)に沿った「光警報システム」を開発し、提供を開始しました。

なお、このシステムは「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催を控え、ユニバーサルデザインへの取組みを強化している成田国際空港のトイレ施設に採用されました。今後も安心、安全な社会の実現に向け、普及に取組んでまいります。

## <経営基盤の強化>

事業の選択と集中のさらなる促進により経営の効率化を図るとともに有利子負債の圧縮などによる財務体質の強化や要員の適正化およびコーポレートガバナンスの強化に継続的に取組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

さらに新たな事業の創生を加速するため、新規事業開拓部門の機能および映像事業推進体制の強化に努めてまいります。

今後とも株主の皆様のご期待にお応えするため、なお一層の努力を重ねてまいりますので、引き続きご支援、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

## 「新規事業の創生」に向けた取組み

### AIを活用した新たなヘルスケア市場に参入 ～アクションリサーチ株式会社へ出資～

サクサ株式会社は、健康科学領域の人工知能（以下「AI」という。）技術を開発・提供するアクションリサーチ株式会社（以下「アクションR」という。）の第三者割当増資を引受け、新たなヘルスケア市場に参入いたします。

現在、サクサグループでは、医療、社会インフラ市場等において、これまで培ってきた通信、IoT、AIなどの技術を活用したスマートケアサービスに注力しており、ケアサービスの現場等に取付けた生体センサ、カメラ、マイクなどのIoTデバイスから生体データを効率的に収集し、そのデータを解析することで、健康状況を把握するといった実証実験にも取り組んでおります。

一方、アクションRは、AI エンジン（深層学習）と知識ベースエンジン（相関・推論・検証・最適化）のハイブリッド実装方式によるビッグデータ分析を実現する技術を開発し、中でも、各個人の健康度・将来の健康阻害や疾病・疾患のリスク危険性を評価し予測推定する技術の開発に注力しています。

両社は高付加価値なスマートケアサービスの確立に向けて、IoTデバイス、解析エンジンおよびプラットフォームからアプリケーションサービスに至るまでの提供を検討し、ビジネスを共に共創していくことで、オフィス市場から介護、医療などの社会インフラ市場等、幅広いヘルスケア関連分野で新たな潮流を生み出し、多くの人々に貢献できるよう取組んでまいります。

### AIおよびBlockchain分野を中心としたベンチャーファンド 「SBI AI&Blockchain ファンド」へ出資

サクサ株式会社は、SBI ホールディングス株式会社（代表取締役執行役員社長 北尾吉孝）の子会社であるSBI インベストメント株式会社（代表取締役執行役員社長 川島克哉）が設立・運営する「SBI AI&Blockchain ファンド」（名称：SBI AI&Blockchain 投資事業有限責任組合）（以下、「本ファンド」という。）へ出資いたしました。

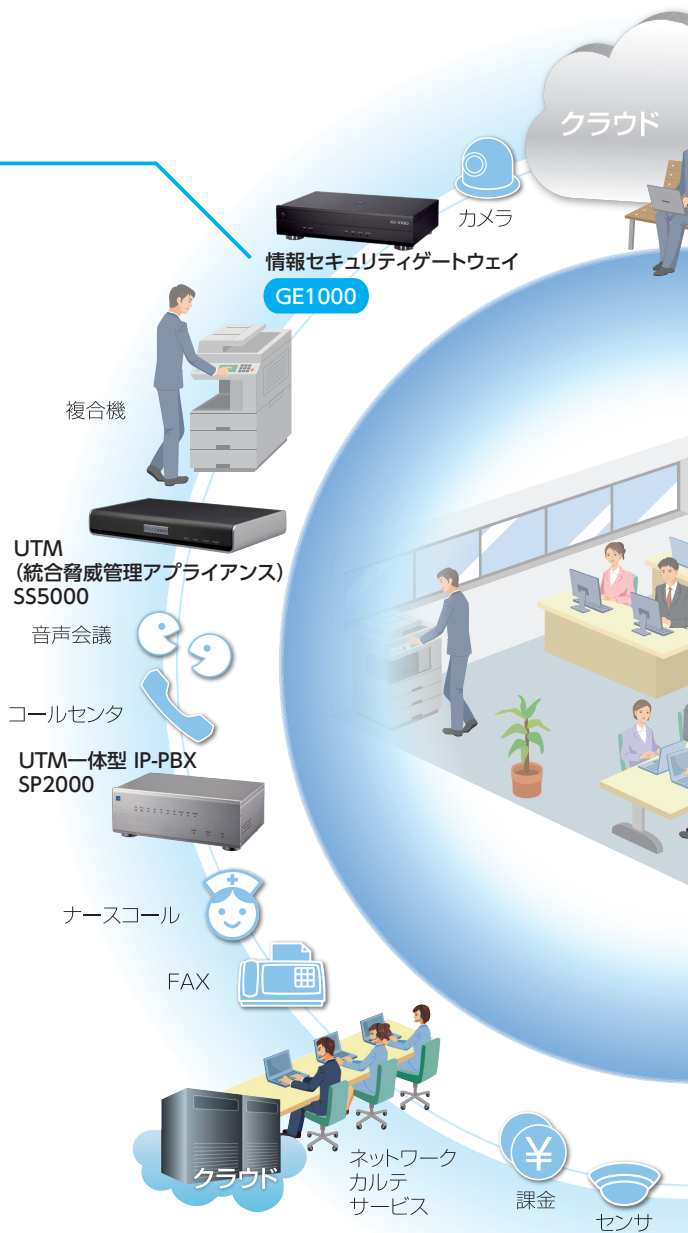
本ファンドが出資する市場成長期待の高い分野は、現在、サクサグループにおいても「AI、IoTを活用した新たなヘルスケア市場への参入」や「映像事業拡大に向けた取組み」など、積極的に展開している分野とマッチしていることから、同分野での事業を加速するため、本ファンドを通じたベンチャー企業との協業による新規事業創出や技術革新を迅速かつ効率的に進めてまいります。

## 「集中事業の拡大」に向けた取組み

### 機密データ流出を徹底ガード 情報セキュリティゲートウェイ 「GE1000」を新発売！

サクサ株式会社は、中小規模オフィスにおけるオフィス運営代理人システム「Office AGENT」シリーズの一つとして、オフィスの内部セキュリティを強化する情報セキュリティゲートウェイ「GE1000」を平成29年12月から発売いたしました。

「GE1000」は、不正端末侵入防御とメールセキュリティの機能があり、不正端末侵入防御機能では、接続を許可していないパソコンやスマートフォン、IT機器を検知し、社内ネットワーク接続をブロックすることで、社内ネットワークを健全な状態で保護し、ウイルスやスパイウェアの拡散、なりすまし、通信の盗聴などの攻撃を回避します。また、メールセキュリティ機能では、メール誤送信防止や送信メールフィルタリング、メール添付ファイル自動暗号化により、メールからの機密情報や個人情報の流出を未然に防ぎます。







## 業界初!DECT方式「マルチラインシステム コードレス電話機」を発売開始!

サクサ株式会社は、中小規模オフィス向けビジネスコミュニケーションシステム「PLATIA (プラティア) II」に接続する業界初のDECT方式「マルチラインシステムコードレス電話機」を平成30年3月から発売いたしました。

これまでDECT方式のマルチラインコードレス電話機はありましたが、複数の外線からの着信に対応できるマルチライン、かつマルチゾーンのシステムコードレス電話機は業界初となります。

このマルチラインシステムコードレス電話機を、PLATIA IIに端末として登録することでオフィス内に設置した専用の基地局 (CS) のエリア内であれば、広範囲 (見通し最大距離200m) に内線電話として使用できるようになります。また、オフィスから離れた工場や倉庫などでの移動中でも内線・外線を問わずに通話できるほか、配線が不要なのでオフィスのレイアウト変更時にも容易に対応することができます。さらに、離席中の社員に連絡が入っても担当者の端末を呼び出して通話を転送でき、電話をかけてきたお客様を待たせることもありません。



## Office AGENT

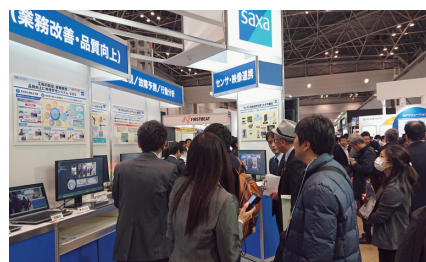
サクサの「Office AGENT」シリーズは、サクサが情報システム部門のない中小規模オフィス向けにご提供する、オフィス運営代理人システムです。サクサのオフィスソリューション提供ノウハウを集結し、ネットワーク商材を連携させることで、お客様の「お困りごと」をスピーディに解決いたします。

## 「集中事業の拡大」に向けた取組み

### 映像圧縮システム・VMS・IoT技術を活用した映像事業の取組み強化 ～映像圧縮ゲートウェイ「VC1000」発売開始～

株式会社システム・ケイは、平成29年10月から主に既存市場向けに映像処理の集中を軽減する独自の分散処理を実装し、拡張性と耐障害性の高いVMS（映像管理システム）「SKVMS」を発売いたしました。また、サクサ株式会社では、映像事業分野での新規創生を目指しており、第一弾として、圧縮した高画質映像をリアルタイムに配信できる映像圧縮ゲートウェイを開発、製品化し、「VC1000」として平成30年3月から発売いたしました。

今後、映像事業拡大に向けた取組みを継続強化するために、サクサグループは、VMSを映像システムのプラットフォームとして提供し、映像圧縮および顔認識や車両ナンバー認識等のアプリケーション連携により映像解析による業務用映像ソリューション展開を行います。さらには、映像・IoTソリューションとして、ネットワークカメラ映像の解析結果から「IoTゲートウェイ」と連動させ、表示やアラームなどによる状態の可視化や、各種センサ情報を「IoTゲートウェイ」で受信し、VMSにより映像情報と関連付けし記録するなど、映像センシングとIoTを組み合わせ、さまざまな業務向けに付加価値の高いサービスを提供してまいります。



「スマート工場 EXPO2018」に出展

### 「光警報装置の設置に係るガイドライン」に対応した光警報装置本格販売 ～ユニバーサルデザインに取組む成田国際空港施設に採用～

サクサプレジジョン株式会社は、総務省消防庁のまとめた「光警報装置の設置に係るガイドライン」に沿った、日本消防検定協会における型式適合評価第1号の光警報装置「FB210」を昨年からの販売しており、新たに型式評価に適合した光警報制御装置「FP-510」を加え、「光警報システム」として提供を開始いたしました。

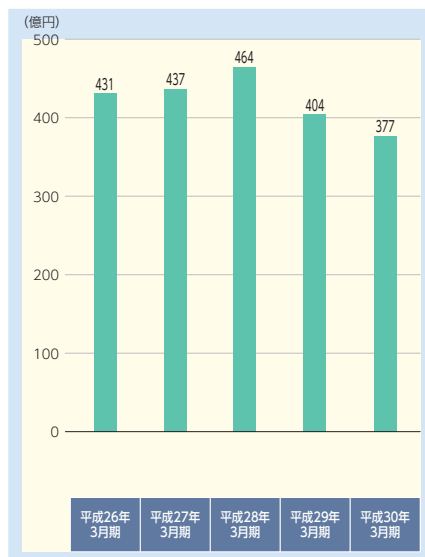


成田国際空港のトイレ施設に光警報装置を導入(国内大型施設初設置)

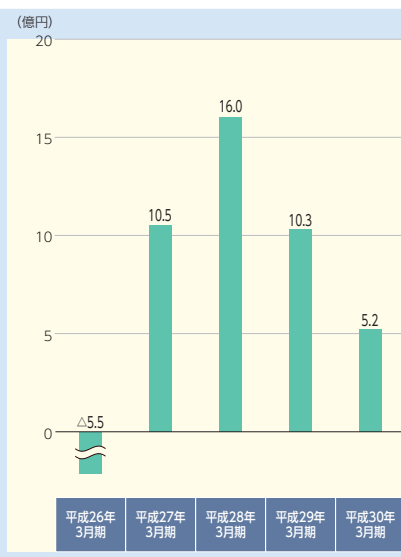


# 連結業績ハイライト

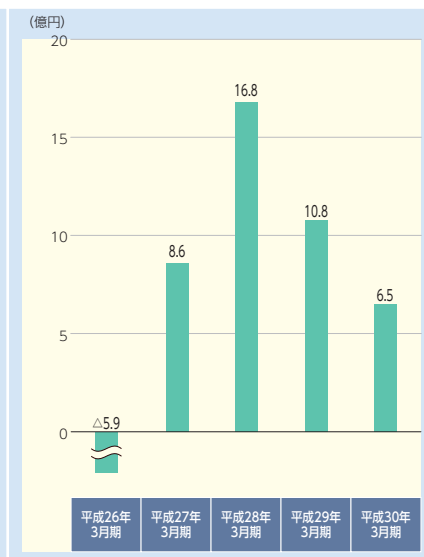
## 売上高



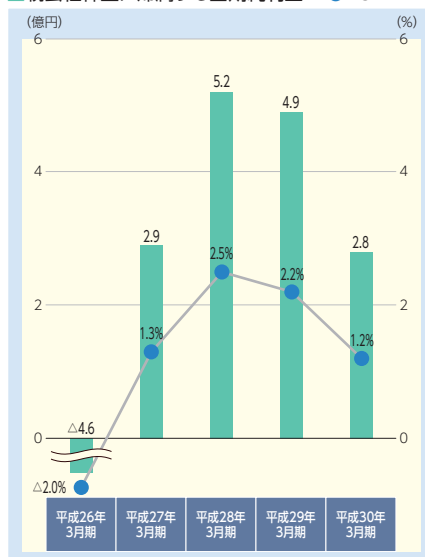
## 営業利益



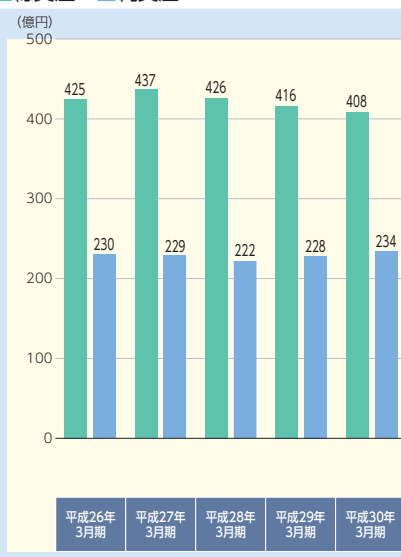
## 経常利益



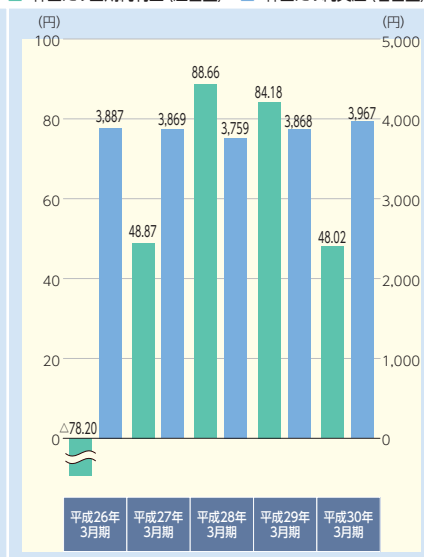
## 親会社株主に帰属する当期純利益 ● ROE



## 総資産 ■ 純資産



## 1株当たり当期純利益 (左目盛) ■ 1株当たり純資産 (右目盛)



※ 平成29年10月1日を効力発生日として当社普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。平成26年3月期（第11期）の期首に当該併合が行われたと仮定し、「1株当たり当期純利益」および「1株当たり純資産」を算定しております。

# 連結財務諸表(要約)

## ●連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 (平成29年3月期)	当期末 (平成30年3月期)
(資産の部)		
流動資産	25,220	24,364
固定資産	16,405	16,437
有形固定資産	9,566	9,395
無形固定資産	2,452	2,232
投資その他の資産	4,387	4,809
繰延資産	3	0
資産合計	41,629	40,802
(負債の部)		
流動負債	11,201	12,013
固定負債	7,656	5,421
負債合計	18,858	17,435
(純資産の部)		
株主資本	21,957	21,944
資本金	10,836	10,836
資本剰余金	6,023	6,023
利益剰余金	6,341	6,330
自己株式	△1,243	△1,245
その他の包括利益累計額	642	1,236
非支配株主持分	170	186
純資産合計	22,770	23,367
負債純資産合計	41,629	40,802

## ●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成29年3月期)	当期 (平成30年3月期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,653	3,190
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,554	△2,006
財務活動によるキャッシュ・フロー	△996	△1,667
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△4
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	1,104	△489
現金及び現金同等物の期首残高	7,205	8,310
現金及び現金同等物の期末残高	8,310	7,821

※連結財務諸表の各数値については、表示単位未満を切捨てて表示しております。

## ●連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成29年3月期)	当期 (平成30年3月期)
売上高	40,414	37,684
売上原価	30,763	28,209
売上総利益	9,651	9,474
販売費及び一般管理費	8,618	8,958
営業利益	1,033	516
営業外収益	200	243
営業外費用	156	106
経常利益	1,076	653
特別利益	0	18
特別損失	173	101
税金等調整前当期純利益	903	570
法人税等	389	267
当期純利益	514	303
非支配株主に帰属する当期純利益	20	22
親会社株主に帰属する当期純利益	494	280

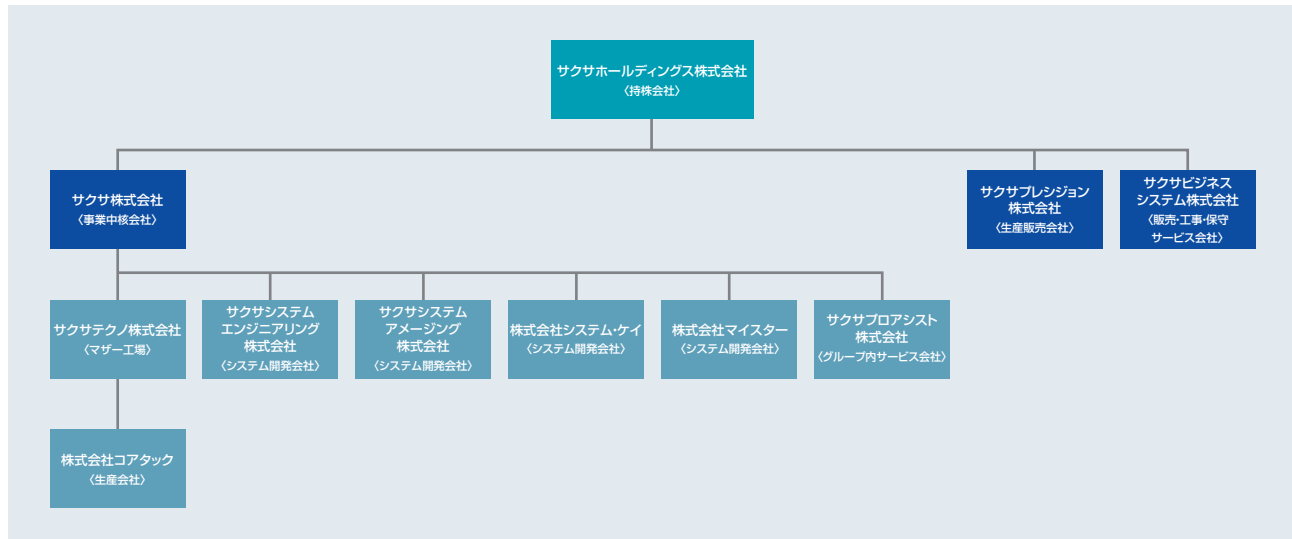
## ●連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (平成29年3月期)	当期 (平成30年3月期)
当期純利益	514	303
その他の包括利益	272	593
包括利益	786	896

# グループ会社および当社の概要

## ● サクサグループ(11社) (平成30年4月1日現在)



## ● サクサ ホールディングス株式会社 (平成30年3月31日現在)

設立年月日 平成16年2月2日

資本金 10,836,678,400円

従業員数 1,114名(連結)、44名(単独)

本社 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー

事業内容 情報通信システムの機器および部品の開発、製造および販売を主として行う子会社の経営管理等

### 取締役および監査役 (平成30年6月28日現在)

代表取締役社長	松尾 直樹	取締役	曾我部 敦	常勤監査役	江藤 進
常務取締役	磯野 文久	取締役	丸井 武士 (新任)	監査役	梅津 光男
常務取締役	大坂 貢	取締役	布施 雅嗣	監査役	飯森 賢二
取締役	中村 耕児	取締役	小口 喜美夫	監査役	清水 建成
取締役	井上 洋一	取締役	山本 秀男		

※1. 布施雅嗣、小口喜美夫および山本秀男の3氏は、社外取締役であります。また、小口喜美夫および山本秀男の両氏を株式会社東京証券取引所が定める独立役員として指定し、届け出ております。  
 ※2. 飯森賢二および清水建成の両氏は、社外監査役であります。また、両氏を株式会社東京証券取引所が定める独立役員として指定し、届け出ております。

## 株式の状況

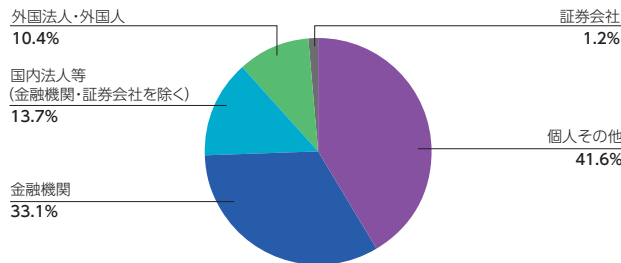
- 発行可能株式総数 ..... 24,000,000株
- 発行済株式の総数 ..... 6,244,962株
- 株主数 ..... 6,030名

## 大株主

株主名	持株数	持株比率
沖電気工業株式会社	806千株	13.7%
日本電気株式会社	236千株	4.0%
株式会社みずほ銀行	233千株	4.0%
株式会社三井住友銀行	176千株	3.0%
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	170千株	2.9%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	110千株	1.8%
水元 公仁	103千株	1.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	96千株	1.6%
株式会社三菱東京UFJ銀行	95千株	1.6%
サクサグループ従業員持株会	91千株	1.5%

- ※1. 当社は、自己株式401千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
- ※2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。
- ※3. 沖電気工業株式会社の持株数には、沖電気工業株式会社が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式605千株を含んでおります。(株主名簿上の名義は、「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 沖電気工業口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社」であります。)
- ※4. 株式会社みずほ銀行の持株数には、株式会社みずほ銀行が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式177千株を含んでおります。(株主名簿上の名義は、「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社」であります。)
- ※5. 持株数については、表示単位未満を切り捨て、持株比率については、表示単位未満を四捨五入しております。

## 所有者別分布状況



※ 所有者別分布状況に記載の数値については、表示単位未満を四捨五入しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
期末配当の基準日	3月31日	
定時株主総会	6月	
基準日	3月31日 その他、必要があるときは、あらかじめ公告して定める日とします。	
公告掲載URL	http://www.saxa.co.jp/ ※ 当社の公告の方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。	
郵便物送付先	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
電話お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部	
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当受取り方法の変更等)	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)	
未払配当金のお支払	お取引の証券会社等になります。 みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店および全国各支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。みずほ証券で単元未満株式の買増請求手続きをされる場合は、事前にみずほ信託銀行が指定する口座に送金していただく必要があります。